

● 世界の主な火山活動

平成 25 年（2013 年）10 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

エトナ (Etna) イタリア（図中 A） 標高 3,330m

10 月 26 日に新南東火口で、前回の突発的な活動から 6 か月ぶりとなる溶岩噴泉の新たな活動が発生した。火砕物を多量に含んだ噴煙は、火口縁上数 km まで上昇し、南西方向に流れ、カルタニセッタまでの人口密集地に影響を及ぼした。溶岩噴泉は、昼前まで継続し、溶岩は翌日まで流れ続けた。

また、26 日 10 時 19 分には、北東火口からも噴火が発生し、暗褐色の噴煙が 1 km まで上昇した。この噴火は深夜まで続いた。

クリュチェフスコイ (Kliuchevskoi) ロシア（図中 B） 標高 4,835m

10 月 11 日に南西山腹から爆発的噴火が発生し、15 日から 19 日にかけて火山活動は断続的に活発化した。衛星画像によると、この期間の噴煙の最高高度は海拔 10km であった。ストロンボリ式噴火と溶岩流の流出は 10 月 25 日まで継続した。

シベルチ (Shiveluch) ロシア（図中 C） 標高 3,283m

10 月 11 日から 25 日にかけて、粘性の高い溶岩流が溶岩ドームの北及び北東側山腹に流出した。10 月 18 日に発生した噴火では、噴煙が海拔 10km まで上昇し、南東方向に流れた。衛星画像により熱異常が毎日観測され、溶岩ドームは成長を続けている。

シナブン (Sinabung) インドネシア（図中 D） 標高 2,460m

9 月 29 日以降、地震活動は減少傾向にあったが、10 月 23 日に爆発的噴火が発生した。10 月 24 日に発生した爆発的噴火では、噴煙が火口縁上 3 km に上昇し、南側の地域で降灰があった。シナブンから 3 km 以内の地域では 3,300 人が避難している。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

